

1865 年「信徒発見」の 前年における 浦上村 潜伏キリシタンの 信仰表明

パリ外国宣教会ジラル神父とフューレ神父の書簡から



Prudence GIRARD

2025/5/17(土) 13:30-15:00 浦上キリシタン資料館



Louis FURET

◆お申し込み

浦上キリシタン資料館(平和町 11-19)へ
電話・FAX・メールでご予約ください
tel&fax:095-807-5646
urakamicm@mxn.cncm.ne.jp
資料代:500 円 定員:30 名(先着順)

1865 年 3 月 17 日、長崎の大浦天主堂においてパリ外国宣教会プティジャン神父に浦上キリシタンが信仰を表明したいわゆる「信徒発見」の前年、長崎の町はずれを散歩していた同じくパリ外国宣教会のジラル神父とフューレ神父に一人の男性が話しかけました。

“浦上村では私を含む多くの者があなた方と同じように主日を守っています…”

今回の講演では、ジラル神父とフューレ神父の書簡を通じて、浦上村の潜伏キリシタンが危険を顧みずに宣教師に話しかけ、代々受け継いできた信仰を表明した出来事をみていきます。

宣教師の書簡については、和訳だけでなく原本(パリ外国宣教会文書館から入手した画像)を確認しながら、当時の状況を一緒に追体験できたらと思います。

◆講師：宮崎善信



長崎県立長崎東高等学校卒。上智大学外国語学部英語学科を卒業後、西江(ソガン)大学文学部史学科を経て、高麗大学大学院韓国史学科修士課程修了。専攻分野は、日仏交流史、日韓キリスト教交流史。韓国滞在中に駐大韓民国日本国大使館専門調査員(1999 年～2002 年)。キリスト教史学会(理事)、キリシタン文化研究会、朝鮮史研究会、朝鮮学会に所属

◆主催・問い合わせ：NPO 法人アジェンダ NOVA ながさき
林田 (090-7923-7435)